

グリーンイノベーション基金事業
「大規模水素サプライチェーンの構築」プロジェクトに関する
研究開発・社会実装計画（改定案）に関する意見公募手続の結果について

令和5年5月12日
経済産業省資源エネルギー庁
省エネルギー・新エネルギー部
新エネルギーシステム課

「グリーンイノベーション基金事業「大規模水素サプライチェーンの構築」プロジェクトに関する研究開発・社会実装計画（改定案）」について、令和5年2月15日から同年3月17日まで意見公募手続を実施しました。

提出意見と提出意見を考慮した結果については以下のとおりです。なお、行政手続法第四十三条2項に基づき、提出意見は整理又は要約しております。

1. 意見公募の実施方法

- ・ 意見募集期間：令和5年2月15日（水）～令和5年3月17日（金）
- ・ 実施方法：電子政府の総合窓口（e-Gov）における掲載
- ・ 意見提出方法：e-Gov

2. 提出意見数

4件

3. 提出されたご意見の概要及びご意見に対する考え方

別紙のとおり。

御協力いただき、誠にありがとうございました。

ご意見の概要及びご意見に対する考え方

	提出意見	提出意見を考慮した結果
1	他国はカーボンニュートラルなどやろうとしていないところに、日本だけは論拠の薄い地球温暖化説を盲信して、せっせと無駄金を費やしている。日本の落ち込んだ経済状況を考えれば、経済振興策に力を注ぐべき。	グリーンイノベーション基金は、「経済と環境の好循環」を作る産業政策「グリーン成長戦略」において実行計画を策定している重点分野のうち、特に政策効果が大きく、社会実装までを見据えて長期間の取組が必要な領域の研究開発・実証を対象としております。エネルギー政策だけではなく、産業政策の両面から、企業の前向きな挑戦を後押しし、成長が期待される分野の発展に繋がるよう官民一体で取り組んでまいります。
2	プロジェクト内容に異論はないが、本プロジェクト以外にも水素関連事業は色々行われているため、一貫した国の水素戦略として各プロジェクトだけでなく、他のプロジェクトや全体的な社会実装スケジュールとの関連性を本計画内でも明確化したうえでプロジェクトを進めて頂きたい。	大規模水素サプライチェーンの構築に向けて、水素基本戦略に掲げる2030年、30円/Nm ³ の水素供給コストを本プロジェクトにおいても目標値の一つとし、水素サプライチェーン構築と水素発電技術の研究開発を需給一帯の取組として進めることにより供給コストの低減、早期の水素社会の実現を目指します。 グリーンイノベーション基金等で支援する水素関連分野の技術開発の動向については、現在、水素・燃料電池戦略協議会における「水素基本戦略」の改定に向けた議論等も通じて、技術開発の進捗や社会実装に向けた方向性を検討してまいります。
3	「水素発電」は用語として正しくないため、「水素ガスタービン発電」もしくは「需要：発電」とすべき。 また、燃料電池についての記述が少ないため、記載すべき。効率の高いSOFC型やアンモニアを直接的に使用可能な技術が開発されている点でも重要である。	令和3年10月に策定の「第6次エネルギー基本計画」において、「発電部門における水素利用は、大量の水素需要が見込めることから水素需要の拡大の推進役」としており、「水素の供給量の拡大と供給コストを低減すべく、大規模な国際水素サプライチェーン構築に資する技術開発・実証を、グリーンイノベーション基金も活用しながら、水素発電技術の確立と一体的に行い、2050年にガス火力以下のコストを目指す。」としております。 「大規模水素サプライチェーンの構築」プロジェクトは大規模需要を創出する「水素発電」として、「水素ガスタービン発電」を想定した社会・実装計画上の記載としております

		<p>が、今後の技術の進捗状況、社会実装に応じて、燃料電池の発電技術を除外するものではありません。そのため、水素を用いた発電を総称して「水素発電」としております。</p> <p>なお、燃料電池につきましては、現在、グリーンイノベーション基金以外の取組で、「水素社会実現に向けた革新的燃料電池技術等の活用のための研究開発事業」を実施しており、今後の社会実装に向けては、各事業の連携を進めてまいります。</p>
4	<p>水素の入手先については、極力日本国内での自然エネルギー由来のものにすべき。</p> <p>日本は周囲を海に囲まれており、複数の洋上風力発電好適スポットがあることから、その強みを適切に生かす事が重要。</p> <p>浮体式洋上風力発電を積極的に推進し、すみやかに国内においての発電及び水素・アンモニア等製造を大規模に開始していくべき。</p>	<p>令和3年10月策定の「第6次エネルギー基本計画」では、「安価な水素・アンモニア等を長期的に安定的かつ大量に供給」するためには、「国内の資源を活用した水素の製造基盤の確立を同時に進めていくことが重要」としていることから、海外からの水素だけでなく、国内での水素製造に向けても取り組んでまいります。</p> <p>そのため、余剰再生可能エネルギー等を活用した水電解装置による水素製造の実現を目指し、グリーンイノベーション基金「再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造」プロジェクトにおいて、水電解装置の研究開発等を支援しております。</p> <p>また、ご指摘の洋上風力についても、同じくグリーンイノベーション基金「洋上風力発電の低コスト化」プロジェクトにおいて、浮体式洋上風力発電の低コスト化を目的とした研究開発にも取り組んでおります。</p> <p>これらの取組とも連携しながら、各プロジェクトの研究開発の進捗・成果について、必要な連携を行うとともに、国内外での大規模な水素・アンモニアサプライチェーンの構築に向けて取組を進めて参ります。</p>